

VWイベントで考えた。

モータージャーナリスト、レーシングドライバー、そしてチューナーと多方面で活躍する太田哲也が、世の中に自らのオピニオンを直球で発信し世相を斬る「俺の話を開け」。

第16回は、VWオーナーとして初参加したVWのイベントについて。クルマを愛する心に国境は無いと考えてきた太田哲也が、VWイベントで感じた「アウェイ感」とは何だったのか？

TEXT●太田哲也 (Tetsuya Ota)
PHOTO●ATO/VWGJ

オレの話を開け！

太田哲也の

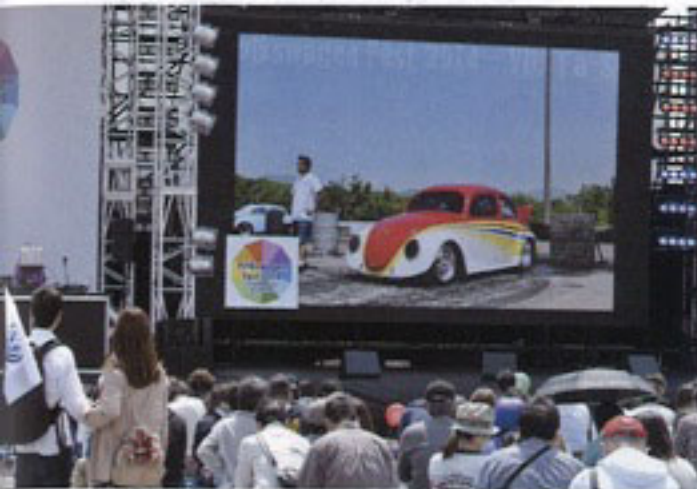
ク

ルマはパートナー、自分のキャラとの相性がとっても大事。そう思っているのも、まさかVWゴルフを自分が買うとは思っていなかったな。ゴルフのキャラは、頭が良くて運動ができる優等生、生徒会長のイメージだ。一方オレは、プロスポーツ選手になるくらいだから運動はできたし幼少期には神童と言われたこともあったけど(笑)、常に反権力側、言い方を替えれば不良側。ゴルフのキャラとは大きな溝がある。

それをわかった上で「走りの性能」に魅かれて最近ゴルフGTIを購入した。改めて納車されたGTIを見てみる。普段の愛車アルファ・ジュリエッタと比べて内装はだいぶ地味だ。ベイスティローラース(古っ)みたいなチェック柄のシートはGTIのアイデンティティらしいが己の趣味ではない。クルマにはセクシィさが必須だと思っているが、GTIに色気はほとんどない。スポーツモデルなのに対向ブレーキキャリパーもないので見栄えしない。でもそれらに目をつぶって余りある「走りの



特設ステージではノリノリのDJビストン西沢によるダンス音楽がガンガン流れていて、体が自然とリズムをとっている。ところがふと周りを見渡してみたら、ノッて体を動かしていたのはオレと妻のみ。生徒会長はディスコ(古いか……クラブだね)とか行かないのかな。ノリが悪いな、と思った。



ドライビング・エクスペリエンスは講師が運転。ショートコースではワンコイン・ドライビングレッスンが開催されていたが、カックンブレーキをしない踏み方の実習で超初心者向け。サーキットタクシーは90分待って1、2周。走りの面白さを体感する場や、自ら走る場はあまりなく、GTIオーナーには満足できないメニューだった。VWGJは安全性を第一義にアピールしたいのと思うが。



オレの人生での経験から、家族を大事にすることは大切だが、それをアピールするとロクなことではない。長い結婚生活において、一度や二度は間違いを起こすかもしれない。そんな時、普段からふざけた(様に見える?)ラテン系のクルマに乗って、ちやらちやらした格好をしていけば、多少のおイタ(痛)は多めに見られるものだ。でも普段から家族最優先

目な女性」を連れてくる人はひとりもいなかった。それはそれで良いのだが、ただ一日中「家族が大切」モードの中にいたら、不良サイドのオレとしては、そんなにアピールするのやめといた方がいいで、という気持ちが浮かんできた。

VWフェストは総じてファミリー向けに特化した印象だった。肩ひじ張らず家族でイベントを楽しんでもらいたい、VWのオーナーであることを楽しんでもらいたい、そんなVWGJの気持ちも伝わってきた。つまり敷居を下げるための。キーワードはファミリー。「外車」として特別扱いされるのではなく国産車との垣根を減らしたい。より広い層に親しんでもらって販売数をさらに拡大したい。そんなメーカーの思いも伝わってきた。

潜在力」に惚れた。形は実用車だけど中身はスポーツカーだ。しかも挙動が安定していて安全性が高いので、サーキット初心者にも自信を持って薦められる(その分プロが腕の違いを出しにくい)。

このクルマをベースにオレなりの「太田哲也的GTR」を造ってみようと思ったのだ。日常は愛車、年に数回はサーキット走行を行う「太田哲也とオヤジレーサーズ(正式名称TEZZORACERS CLUB)」のチーム員にドンピシャなスポーツ&ラグジュアリーカー。

そうしてゴルフGTRがオレの元に納車されたタイミングで、VWを1日中楽しめるイベント「フォルクスワーゲンフェスト2014(以下、VWフェスト)」への取材依頼の通知が届いた。「ファミリーでどうぞ」とあったので、妻を連れてオナー気分であつた。富士スピードウェイに出かけてみた。

実はVWフェストは長らく休止していた。前回の開催は2008年で、当時オレはVWJ(フォルクスワーゲングループジャパン)のサポートでワンメイクレースの「GTRカップ」にチーム監督としてシリーズ参戦していた。ロードレースで重傷を負った伊藤真一選手の復帰後のレース復帰の後押しとして彼にステアリングを委ねた。前回のVWフェストのときはGTRカップもてぎ戦と同時開催で、講演を依頼されてVWの魅力語った。「強固なボディ剛性と耐久性のあるトランスミッションとエンジン、意外なほどサーキット向き」。そんなふうに語った記憶がある。

その頃と今回のVWフェストでは微妙に切り口が違っていた。写真をいっぱい撮ってきたので、会場の様子を紹介しよう。



自転車を漕いでミニカーを走らせるレース。その他風船マンなど、子供向け家族向けアイテムは素晴らしい充実。



顧客営業の旧車・空冷イベント会場は、旧ビートル(空冷)とVWバス(タイプ2)のオフ会が行われていた。メイン会場とは違ってやさぐれていて個性的な雰囲気があふん。全体的に西海岸風で、サイクリングや西海岸ファッションも売っていた。アフターパーツやジャンク販売の出展が充実していた。売っている車も買っている車も「クルマ好き」であることがびびんにわかってきた。メインステージと「人様」が通う感じ。VWバスの白くぬいステアリングも新品で売っていて、旧いクルマが大事にされていることも実感。ただメインステージから遠くでシャトルバスで行くしかなくて、現代VWとの交流はなくて人があまり来ていなかった。



ショップのデモカーがいっぱい来ているのだろうと楽しみにしていたが、メイン会場には新型VWのラインアップとコックスのデモカーと所ジョージのビートルのみだった。次回はユーザーのカスタムカーコンテストなどもやってほしい。



空冷ブースはカラーリングもカスタム手法も個性的。でも一定のルールはあるようだ。VWバスはシャコタンが定番。淡い色のツートンがいい感じ。カルマンギアはオリジナルの方向でレストア、内外鏡リフレッシュ。ビートルはドイツ車としてではなく、西海岸風、もしくはレ

トロ感を強調。VWバスの前で会話をするでも何をするでもなく、ただまったりと集まってくる人たちがなんだか楽しそう。同じ価値を共有しているからこそ。

イベントの締めくくりはレーシングコースを使ったパレードラン。新旧様々なVWモデルがコースを埋め尽くして走行する様子はまさに任務で、同好の士が集って走るのとは格別な体験だろう。



抽選で当たるとサーキットタクシーに同乗可能。しかし90分待ちの長蛇の列。お外で誰も文句を言わずじっと並んでいる。オレは人気店でも並ぶのが大嫌い、せいぜい10分。みんな辛抱強い。

世田谷BASEのカスタムカーのアイデアイラストが展示されていた。プロデューサーとして所さんが簡単なアイデアスケッチを描き、それを技術者が具現化していくようだ。彼の顔の中を覗いているような面白さを感じた。



Tetsuya OTA 出光 ENJOY & SAFETY DRIVING LESSON with Volkswagen! 6月28日(土)袖ヶ浦にて開催

「安全運転を、楽しく学ぶ!」をテーマに掲げ、太田哲也氏が校長を務めるドライビングスクールが6月28日(土)に袖ヶ浦で開催。今回はVWゴルフのスポーツモデルであるゴルフGTIとゴルフRがやります。スキル別にあわせた走行クラスが3クラスあるほか、プロドライバーのサーキットタクシーや、家族が楽しめるサーキットサファリ、トークショーなども行う予定。お問い合わせはTetsuya OTAスポーツドライビングスクール事務局まで。http://www.sportsdriving.jp

をアピールし過ぎていると、たった一度の浮気で破算になってしまふのではないかと。それは公務員や教師が扱ったとき、社会から糾弾される度合いが芸能人やアーティストの比ではないみたいなき感じ、かな? 言いたいことは浮気の話ではなくクルマのことだ。何度も言うが、見た目は普通の実用車でも中身はスポーツカーの潜在力、そんな気持ちでゴルフGTRを買ったのだ。けど、VWフェストに行ったら、そんなオレみたいな価値観はアウェイじゃないか? オレは吼えたかった。VWオーナーにだって違うタイプがいて、もっとサーキットを楽しみたいユーザーだっているだろう、て。でも黙って帰って来た。よしこうなったらオレ独自のゴルフGTRワールドを展開させよう。